

# ひろば・ちがさき

No. 810

2008年9月12日

市民会議・市民自治市議団  
茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1  
市役所内 0467(82)1111

市民会議・市民自治市議団  
中嶋 てるお  
☎ 86-5643  
須田 ゆずる  
☎ 86-8788  
岸 正明  
☎ 87-8766  
小磯 妙子  
☎ 52-6731  
和田 清  
☎ 67-5980

## 市長、市立病院は公立病院として役割担う！ JR相模線の増発・終電時間の延長を！ 相鉄線の乗りいれで、早期複線化を！

第三回茅ヶ崎市議会定例会（9月議会）で岸正明議員は、次のとおり一般質問を行いました。

### 一 公立病院・市立病院のあり方について市長の基本的な考え方は？

岸議員「総務省から公立病院ガイドラインが示されているが、市立病院のあり方について市長の基本的な考え方は？小児科や救急部門など不採算部門の財政的数値を明らかにし、必要性について市民へ理解を高めたいとお考えは？ガイドラインを踏まえた本市の改革プラン策定に向けた基本的な考え方を回答されたい。」

市長「市立病院は、これまで地域の基幹病院として、地域医療を積極的に進めながら、急性期の患者を中心に質の高い医療を提供し、市民に安全・安心な生活に寄与していくことが大きな

役割として運営を進めてきた。今後も役割に応じた市民の医療ニーズや技術の進歩に対応した医療を提供したい。また、救急医療体制、周産期・小児医療、大規模災害時における医療拠点病院としての機能等充実、公立病院である市立病院にとって大変重要である。引き続き充実強化に努める。また、たとえ不採算があったとしても市民の健康と命を守るためには、引き続き公立病院として役割を担っていくことが必要と考える。小児科や救急部門の財政的数値の明確化や、それに対する市民の理解を高めることは、改革プラン上、重要な事項であると考えている。現在、市立病院経営計画と整合性を図り、改革プランの策定作業を進めているが、市立病院の役割と期待される機能を見直し、明確化することで、経営健全と良質な医療を継続できる病院を基本に改革プランを策定していきたい。」

※ 市長は、国から民営化など出してきているが、基本的には、たとえ不採算部門があっても今ままでおり、経営は健全化すると同時に、「公立病院として市民の健康と命は守る」という答弁でした。

### 一 相模線複線化と増発・終電時間延長と私鉄乗り入れ等について

岸議員「相模線は1時間当たりの本数も少なく、東海道線の始発にも間に合わない、終電の時間が早いため不便である。増発等についてできないか。JR厚木駅付近から簡易に相鉄線の乗り入れが可能と思う。経済効果も出るし、早期複線化も出来るか考えるがいかが。また、過去に江ノ電を江ノ島から134号と平行に走らせ、茅ヶ崎駅まで乗り入れが可能であるならば、新たな観光スポットや経済効果もあると質問したが、費用がかかりすぎると考え

るので、江ノ電の形をしたバスで、バス路線ができればと考えるがいかがか。

市長「相模線は、毎年、乗降客が増えているので、本市の重要な路線と考える。JRに対して朝夕の通勤・学時間帯に最大1時間に5本を確保するよう要望している。また、始発・終電は、繰り上げ・繰り下げ増便を要望している。JRからは、利用状況や沿線開発状況等を見極め判断したい。と回答を得ている。本市としては、利便性向上に向け、改善を県鉄道輸送増強促進会議を通して要望する。また、相模線複線化は、平成20年度1年をかけて、JRが独自に調査研究を行う。と聞いています。今年度も関係機関・実施機関へ積極的に要望したい。私鉄等の乗り入れについては、要望しているが、現時点では考えていない。との回答であるが、他市町と連携し、関係機関に継続的に要望する。江ノ電バスなどの整備について、事業者者に路線充実を要望する。」

※相模線等は満足のいく回答ではありませんでしたが、今後も、質問していきます。